

うなばら

題字：第10代校長 小池守夫 様



発行：新潟市立五十嵐小学校

新潟市西区寺尾西 4-23-1 (〒950-2064)

Tel.025-269-3117(代) Fax.025-269-3118

E-mail : e710ikarashi@city-niigata.ed.jp

HP アドレス : <http://www.ikarashi-e.city-niigata.ed.jp/>

生き生きと対話し、学びを深める子どもたちに

確かな学力の向上部 主任

平成32年度より、新しい学習指導要領での教育活動が本格的に実施されます。新潟市の小学校では、今年度より「特別の教科 道徳」や高学年の「外国語」、中学年の「外国語活動」が始まるなど、一部の教育活動が先行的に実施されています。

また、新しい学習指導要領では、子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」を実現することが求められています。これを受けて当校では、今年度、「児童が他者と生き生きと対話することで学びを深める言語活動の追究」という研究主題のもと、教職員が一丸となって授業改善に向けた校内研修を行っています。



具体的には、教員同士でグループを編制して、互いに授業を公開し合っています。お互いの授業について、良いところを学び合ったり、改善点を指摘し合ったりしながら、一人一人が普段の授業の質を上げようと努めています。今年度は、このような公開授業を各教員が2回ずつ行うことにしています。

授業の中では、子どもたちが友達と関わり合う場面を意図的に設けるようにしています。その中で、子どもたちが自分の考えと友達の考えを比較し、お互いの考えの似ているところと違うところを意識することで、自分の考えをより深められるようにすることを目指しています。

ある学級の授業では、「ここまでは分かるんだけど・・・」という悩みをもった友達を助けようと、様々な子どもが意見を述べながら、学習を進めていました。「〇〇さんは、こういうことで困っているんじゃないかな。」「それなら、こうするといいと思うよ。」「私はこんなやり方を考えてみたけど、どうかな。」「なるほど、そういうことか!」といった子どもたちが生き生きと学んでいる姿を見て、私達は、このような姿こそが目指すべき「対話」の一つの姿ではないかと考えています。

一方で、あの手この手を尽くしても、なかなか思うような「対話」が展開されなかったり、活発に子どもたちが意見を交わしていても、目指していた「深い学び」の姿が生まれなかったりすることもあります。

私達教員も、子どもたちと同様にお互いに「対話」を通して、どうすればよりよい授業ができるのかについて考えることで、引き続き授業改善に努めてまいります。

トピック五十嵐

マラソン大会では、みんなが自己記録の更新を目指して全力を尽くしました。就学時健診では、5年生が中心となって大きな行事をやりとげました。どの行事も子どもたちが立派に成長した姿が見られました。

自分との戦い

6年3組

今年のマラソン大会は、「5年生のときの自分に勝つこと」を目標にしていました。

練習では、1分くらいタイムが下がっていました。だから、自分なりに練習をしました。それでも、タイムと順位が下がるばかりでした。

順位は、別に気にしていません。上位の人たちは、普段から走っていたり努力したりしていると思うからです。

ただ、5年生のときの自分に負けてしまい、目標が達成できなかったことがとても悔しかったです。

小学校生活最後のマラソン大会は、私にとって悔しいものになってしまいましたが、これからもいろいろな場面で、以前の自分に負けず、越えていけるようにがんばります。

がんばったゆうどう係の仕事

5年2組

わたしは、就学時健康診断で新1年生を検査会場に連れて行くゆうどう係の仕事をしました。この時に心がけたことは、やさしく接するという事です。5人の子どもたちが安心して検査を受けられるようにやさしく話しかけたり、やり方を教えたりしました。また、子どもたちに話しかける時は、しゃがんで話しかけるようにしました。わたしの言うことをしっかり聞いてくれました。移動する時も静かに歩いてくれたので助かりました。

待ち時間にきょうりゅうのお話を読んで聞かせた時、楽しそうに聞いてくれました。特にきょうりゅうが好きなのがうれしそうにしてくれてよかったです。

来年、5人の子どもたちが入学して来たら、いっしょに遊びたいです。

学校の一角

初めてのアートフェスタ

1学年主任

「これは、大きな魚の口に見えるね」「2つ合わせると、アイスになったよ」『やぶいたかたちから うまれたよ』の製作風景です。包装紙等を手で破り、逆さまにしたり斜めにしたり組み合わせたりして、何に見えるかを考えます。子ども達が眺めると、ただの紙片が、大きな怪物や動物、おいしそうな食べ物などに見えてくるのです。

画用紙に貼り、クレヨンやペンで自分の思い描く世界を書き加えていきます。「僕は、家族みんなをかこう」「ここに、ぶら下がって空を飛びたいな」想像は、どんどん広がっていきます。

こんな風にして、自分の思いがたくさんつまった1枚の絵が完成しました。アートフェスタの日、教室に飾られた自分の絵を見て、子ども達はとても満足した表情を見せていました。

初めてのわかくさアートフェスタで、みんなで演奏する楽しさや、絵画で表現するおもしろさを味わった1年生。これからも、新しいことにどんどんチャレンジして、成長してほしいと願っています。

発見いっぱい 感動いっぱい

3年5組担任

運転の苦手な私にとって、自宅から少し遠い西区は未知なる世界。毎日の通勤のおかげで、安全運転にはスピードと車間距離が肝と実感。海沿いの道かバイパスか高速にしようか、その日の気分で選んで楽しむほどになりました。

道のほかにも、毎日楽しみなことがあります。それは職員室を出た時に、窓いっぱいに広がる海と夕焼け空のパノラマアート。刻々と変わる「進化するアート」に見とれてしまいます。

そしてもう一つ。9月にすきなものが増えました。それは子どもたちの造る「砂像」。ぬれた砂の上をはだして歩くだけでも楽しいのに、みんなでワイワイ言いながら思うがままに形作っていく…思いのあふれる作品ばかりでした。毎日発見、毎日感動です。